

# 今、何の病気が流行しているか！

## 【感染症発生動向調査事業から】

平成31年4月1日（月）～平成31年4月7日（日）〔平成31年第14週〕の感染症発生状況

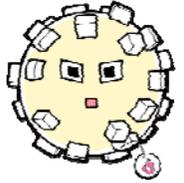
第14週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) インフルエンザでした。

感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.22人と前週（4.92人）から増加し、例年並みのレベルで推移しています。

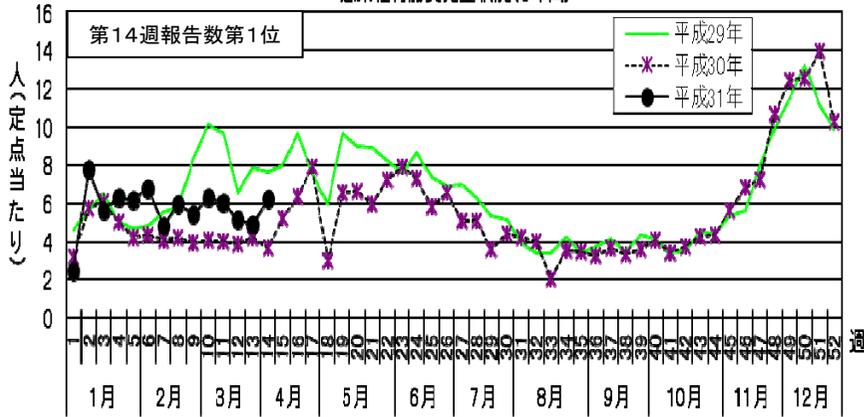
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.32人と前週（2.49人）から横ばいで、例年並みのレベルで推移しています。

インフルエンザの定点当たり患者報告数は0.77人と前週（0.72人）から横ばいで、例年より低いレベルで推移しています。

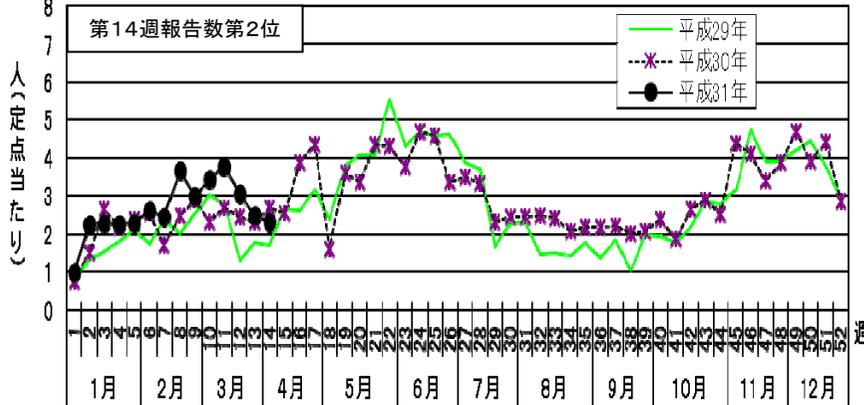
★ロタウイルス★  
ロータンくん



感染性胃腸炎発生状況(3年間)



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況(3年間)



## ロタウイルスによる感染性胃腸炎の感染に注意しましょう！

感染性胃腸炎はウイルスや細菌などを原因とし、下痢や嘔吐を主症状とする感染症です。例年、流行のピークとなる11月～1月はノロウイルスを原因とする胃腸炎が多く、3月～5月にかけてはロタウイルスによる乳幼児の胃腸炎が増加します。

川崎市においては、昨年の12月をピークに感染性胃腸炎の報告数は減少してきましたが、平成31年第14週（4月1日～4月7日）の定点当たり報告数は6.22人と前週の4.92人から増加し、ロタウイルスによる胃腸炎も報告され始めました。

ロタウイルスによる胃腸炎は乳幼児に好発し、年齢が低いほど重症化する可能性が高いため、任意接種ではありますがワクチンによる予防を御検討ください。

### ロタウイルスによる感染性胃腸炎

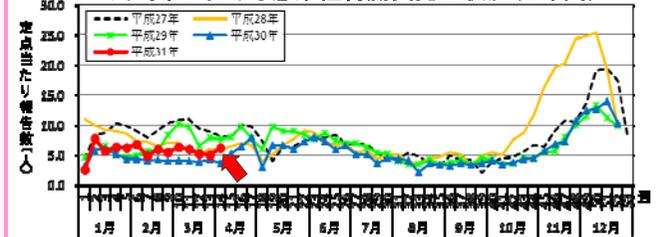
- 感染経路  
経口感染
- 潜伏期間  
2～4日間
- 主な症状  
下痢、吐き気、嘔吐、発熱、腹痛など
- 合併症  
脱水、けいれん、肝機能異常など  
重症例では、脳症、心筋炎、急性腎不全などもみられる。



※けいれんや意識障害などの症状がみられたら、速やかに医療機関を受診しましょう。

速やかに医療機関を受診しましょう。

川崎市における感染性胃腸炎発生状況(5年間)



### ロタウイルスワクチンの接種スケジュールについて

	1価ロタウイルスワクチン (ロタリックス®)	5価ロタウイルスワクチン (ロタテック®)
接種可能期間	生後6週から24週までの間	生後6週から32週までの間
接種回数	2回	3回
接種間隔	前回接種から27日以上	前回接種から27日以上

※両ワクチンともに、初回接種は生後14週6日までにすることが推奨されています。